

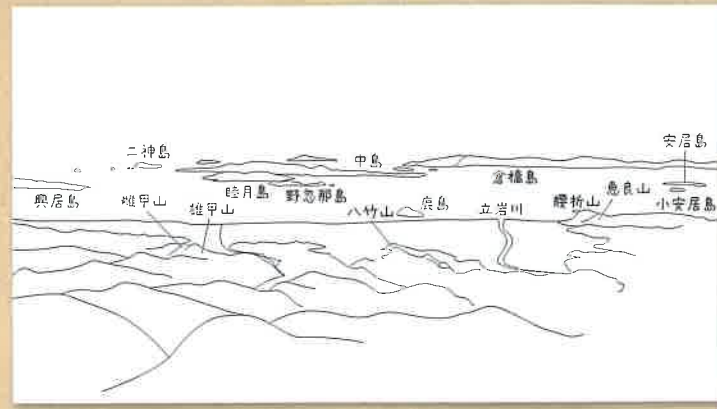
観察にぴったりの時期

春	初夏	夏	秋	冬
3月	4月	5月	6月	7月
8月	9月	10月	11月	12月
1月	2月			

鳥	姿	ヤマガラ	ゴジュウカラ	ヒガラ	コガラ	シジュウカラ	カケス																		
		オオルリ	キビタキ	ミソサザイ	テングチョウ	オオムラサキ	フジミドリシジミ	アカエゾゼミ	ウンゼンツユムシ																
昆虫	成虫	鳴き声	シュンラン	アワコバイモ	ヒトリシズカ	シコクカッコソウ	エイザンスミレ	ツクバネソウ	ヤマシホクヤク	ハルトラノオ	クマガイソウ	ルイヨウボタン	イチリンソウ	ホウチャクソウ	フタリシズカ	アオテンナンショウ	ヤマアジサイ	キツネノカミソリ	フシグロセンノウ	ハガクレツリフネ	キバナアキギリ	シコクブシ	アキチョウジ	モミジガサ	サラシオシロウマ
		植物	花																						

パンフレットの利用にあたって

高縄山の原生林、ブナ林の中を散策してみましょう。
 渡り鳥など野鳥を探したり、鳴き声に耳を傾けてみましょう。
 動物や植物など、傷つけたり採ったりしないようにしましょう。
 自然を感じるためのパンフレットは忘れず持ち帰りましょう。
 身近な自然を知って、いろんな人に伝えていきましょう。



発行：松山市

協力：松井宏光・渡辺奈央・小川次郎
 お問い合わせ：松山市環境部環境モデル都市推進課
 〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2
 TEL 089-948-6434 FAX 089-934-1861
 発行年月日：平成29年12月
 このマップの印刷は風早活性化協議会の協力を得ています

このリーフレットの印刷において必要な電力の100%を松山市の太陽光発電施設で発電したグリーン電力を使用しました。
 Printed by SEI Co.Ltd.



*赤色の種はマップに記載されている種

高縄山へのアクセス



標高差約830m(登り約4時間)。
道は整備されており
快適な登山が楽しめる。

北条の町と
忽那諸島が一望できる

河野川源流の碑

ブナ林が一望できる

カーブの多い坂道。
運転は慎重に。

バス停から展望台まで8.4km
車で約30分
歩いて約1時間40分

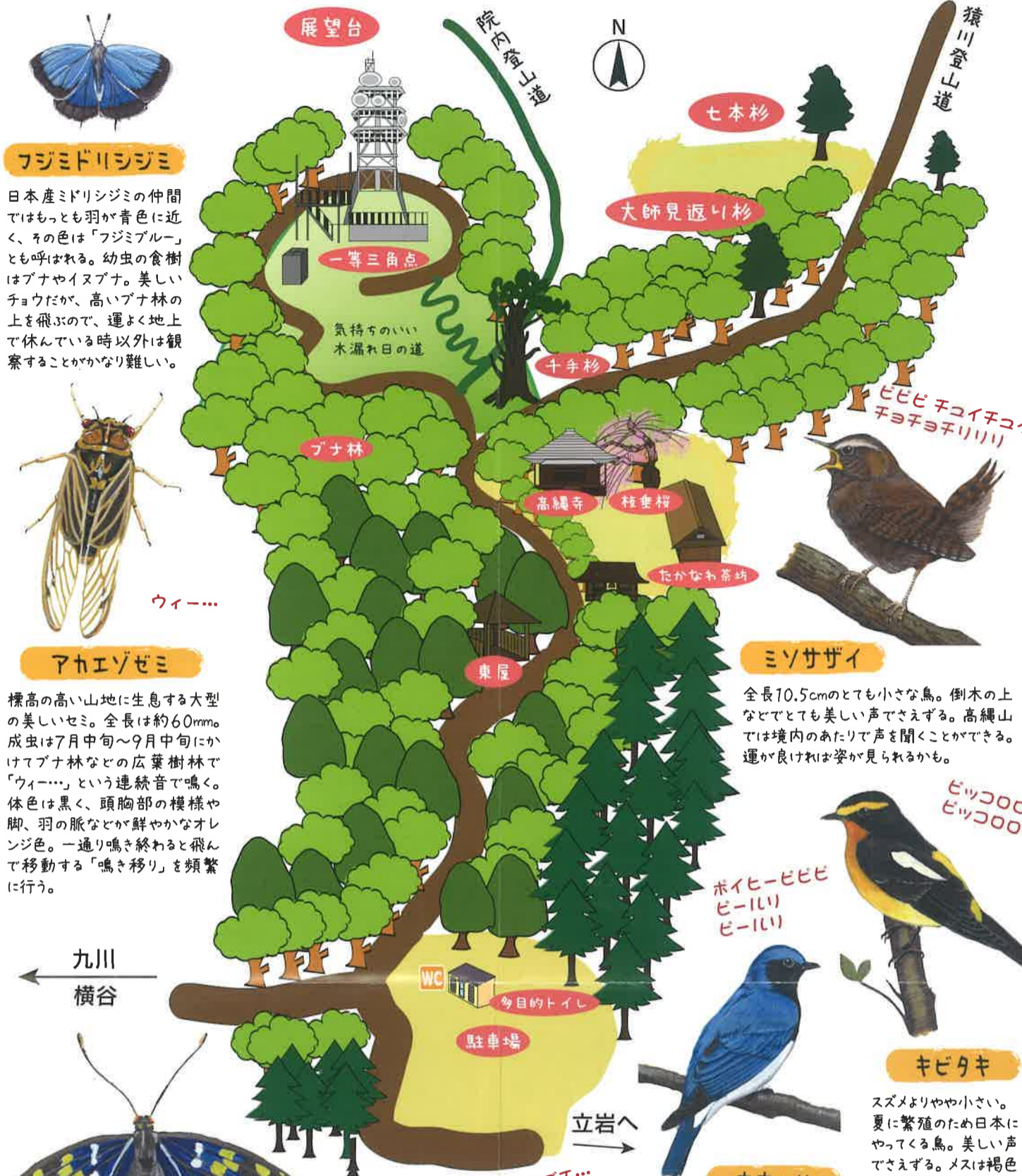
高縄山は松山市北部にある標高986mの独立峰。古くから地元住民の信仰を集めた霊山で、山頂手前には、かつてこの地を治めた河野氏由来の高縄寺がある。山頂一帯のブナ原生林は奥道後玉川県立自然公園に指定されており、四季を通じて、多種の植物・野鳥・昆虫などを観察することができる。また千手杉や七本杉など巨木巡りも楽しい。頂上手前まで車道が整備されているが、駐車場からは徒歩で森の自然を楽しみたい。山麓から登る人には登山道がお勧め。院内登山道は、よく整備されておりたっぷり一日、自然を楽しむことができる。頂上展望台は、腰折山、鹿島、忽那(くつな)諸島、石鎚山まで眺望できる絶景ポイントである。

●お願い
「きれいだから1株だけ持ち帰ろう」と思う気持ちが繰り返されて、今では多くの山草が絶滅危惧種となっています。「きれい」と思った山草は、持ち帰らずに、来年また会いに行ってください。絶滅危惧種の多くが自然公園法や愛媛県条例で採取が禁止されています。



高縄山の自然をみつめる

駐車場から展望台まで



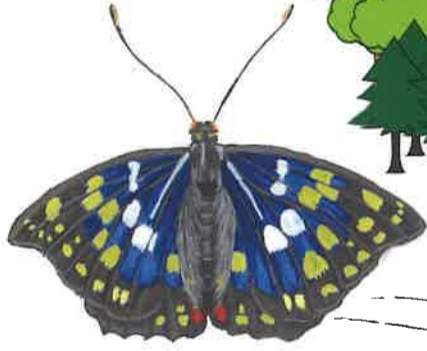
フジミドリシジミ

日本産ミドリシジミの仲間ではもっとも羽が青色に近く、その色は「フジブルー」とも呼ばれる。幼虫の食樹はブナやイヌブナ。美しいチョウだが、高いブナ林の上を飛ぶので、運よく地上で休んでいる時以外は観察することがかなり難しい。



アハエゾセミ

標高の高い山地に生息する大型の美しいセミ。全長は約60mm。成虫は7月中旬～9月中旬にかけてブナ林などの広葉樹林で「ウィー…」という連続音で鳴く。体色は黒く、頭胸部の模様や脚、羽の脈などが鮮やかなオレンジ色。一通り鳴き終わると飛んで移動する「鳴き移り」を頻繁に行う。



オオムラサキ

日本の国蝶として有名。成虫の前羽の長さは50～55mmでタテハチョウ科の中では最大級。オスは羽に青紫色の光沢があり美しいが、時には小鳥やスズメバチを追い払うほど気が強い。成虫は6月～7月に発生し、コナラなど落葉樹の樹液に集まったり、クリなどの花で吸蜜する。幼虫の食樹はエノキやエゾエノキで、冬は落ち葉の中で越冬する。



テングチョウ

雑木林の周辺に生息する。成虫の前羽の長さは20～30mmほど。羽は茶色で、表にオレンジ色の斑紋(はんもん)がある。和名は頭部の前に伸びた突起を天狗(てんぐ)の鼻に例えたもの。成虫のまま越冬し春と秋に活動する。真冬でも天気の良い日には稀に日光浴をしている姿を見ることがある。幼虫の食樹はエノキ。



ウンゼンツユムシ

全長約40mmで薄い緑色(褐色タイプ)の個体もいる)のツユムシの仲間。触角に白斑が入るのも特徴。夏から秋にかけて林縁の草の上で、夜間に複雑な声で静かに鳴く。1978年に九州で発見された新種で、その後、四国の山地にも分布することが分かった。



ヒガラ

スズメより小さい。針葉樹林も好み、ブナだけでなくスギ林でも見られる。ツピンツピンとちゅと早くでさえずる。



コガラ

スズメより小さい。黒いベレー帽をかぶったような頭と蝶ネクタイのような胸の模様が特徴。フィチーフィチーフィチーと高く澄んだ声でさえずる。



ゴジュウカラ

スズメと同じくらいの大きさ。樹幹を垂直に上下移動するなど個性的な動きをし、フィーフィーとさえずる。



カケス

ブドウ褐色の体色で肩に美しい青色の羽がある。どんぐりなどの木の実は隠して蓄える習性がある。ジェーと濁った声で鳴くが、他の鳥の声をまねすることもある。

ヒトリシズカ(一人静)

草丈20cmほどのセンリョウ科の多年草。3月～5月に茎の先に1本の花茎を伸ばして、白色で試験管ブラシのような花をつける。和名は可憐(かれん)な花を静御前(しずかごぜん)に例えたもの。近縁種のフタリシズカは、花茎が2本以上で花期もひと月ほど遅い。



アワコバイモ(阿波小貝母)

林内に生える小さなユリ科の多年草で、クロユリと同じ仲間。葉は5枚。春、茎の先から下向きに角ばった釣鐘(つりがね)型の花をつけ、6枚の花びらには淡紫褐色の網目模様がある。徳島県の高越山(こうつさん)で発見された四国の固有種。松山市・愛媛県・環境省のレッドデータブックに絶滅危惧種として掲載されている。愛媛県では条例で採取が禁止されている。



エイザンスミシ(叡山堇)

草丈は15cmほどのスミレ科の多年草。初夏に淡紅色の花をつけるが花の色には濃淡の変化が大きい。スミレで葉が細かく裂ける種類は珍しい。日本固有種で、和名は比叡山(ひえいざん)に生えるスミレの意味。



シコクハッコソウ(四国鞆鼓草)

草丈は20cmほどのサクラソウ科の多年草。初夏にピンク色の花をつける。四国の固有種で、松山市・愛媛県・環境省のレッドデータブックに絶滅危惧種として掲載されている。愛媛県では条例で採取が禁止されている。



ツクバネソウ(衝羽根草)

落葉広葉樹林内に生えるユリ科の多年草。茎の先に4枚の葉が輪生することが特徴。4月～5月、茎の先に1個の花をつける。花には花びらはなく、4枚の萼(かく)が目立つ。和名は葉と黒い実を羽根つきの羽根に例えたもの。



ヤマシャクヤク(山芍薬)

西日本のブナ林域の林内に生える多年草で、ボタンやシャクヤクの仲間。葉は細かく裂け、両面無毛で柔らかい。5月頃、茎の先に白色の花を1個つける。秋にはバナナに似た細長い果実が熟す。



ブナ(山毛櫨)

冷温帯林を代表する高木落葉樹で、四国では標高1,000m以上に発達する。樹皮は灰白色できめ細かく、地衣やコケがついて独特の斑紋が見られる。初夏に葉が開く頃、高い枝先に雄花・雌花が咲くがあまり目立たない。秋には痩せた三角形のどんぐりを落とすが、これは生のまま食べることができる。



サラシナショウマ(晒菜升麻)

落葉広葉樹林内に生えるキンポウゲ科の多年草。9～11月頃に茎の先に、白いブラシのような花をつけ暗い林内でもよく目立つ。若葉を茹(ゆ)で水にさらして食べることから晒菜(さらしな)という。根は升麻(しょうま)といい漢方薬となる。



コラム

昔、ブナは、材が腐りやすく利用価値が無いことから、「木で無い木だ」として漢字で「櫨」と書かれたこともある。しかし今ではブナ林は動植物の生息環境として、また森林土壌の高い保水性から「緑のダム」として高い価値が認められている。高縄山のブナ林は、標高1,000m以下に発達していること、他のブナ林では普通に見られるササ類が欠けていることが特徴。松山市中心部から車だと1時間ほどで到着することも高縄山のブナ林の魅力である。